

各位

上場会社名 石垣食品株式会社  
 代表者 代表取締役社長 石垣 裕義  
 (コード番号 2901)  
 問合せ先責任者 経理部経理課 課長 小西 一幸  
 (TEL 03-3263-4444)

## 業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、また、特別損失を計上することとなったことから、平成26年10月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	575	△32	△33	△33	△9.91
今回修正予想(B)	520	△74	△73	△74	△21.87
増減額(B-A)	△55	△41	△40	△40	
増減率(%)	△9.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	601	△72	△77	△68	△20.35

平成27年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	573	△6	△6	△7	△2.06
今回修正予想(B)	517	△30	△31	△85	△25.28
増減額(B-A)	△55	△24	△24	△78	
増減率(%)	△9.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	596	△32	△30	△21	△6.41

#### 修正の理由

##### (1) 単独

主力商品であるビーフジャーキーについて、円安や、主要原料である牛肉価格の高騰が、従来から採算を悪化させており、第3四半期に商品の内容量を減らす実質値上げを行うことで採算改善を目指してまいりましたが、競争環境の激化の中、再値上げを再需要期である12月に行わざるを得なかったことから、特に第4四半期において想定を上回る減収となりました。また、想定を超える円安水準が長期にわたって続いたこと、販売数量の減少に伴う生産稼働率の低下から更に採算が悪化いたしました。

最盛期である夏季が天候不順の影響で業績悪化の一因となった飲料事業については、冬季を最盛期とする健康茶での巻き返しを目指しましたが、健康商材の競争が激化する中、売上を伸長させることができず、通期で採算改善に至りませんでした。

また、下記の特別損失を計上することとなったことから、減収及び大幅な赤字計上となりました。

##### (2) 連結

単独決算と同様の理由により、特にビーフジャーキーを生産する中国生産子会社の採算が大幅に悪化したことから、減収及び大幅な赤字計上となりました。

#### 特別損失の計上について

##### (1) 事実の概要

ビーフジャーキーを生産する中国生産子会社「ウェイハン石垣食品有限公司」について、採算の悪化から、赤字の計上が続いておりましたが、それにより純資産が大幅に減少し、更に海外の会社であることから円安により相対的に企業価値が減少したことから、当社から子会社への「関係会社出資金」92,245千円について、減損の判定を要することとなりました。

##### (2) 決定の理由

当社としましては、子会社の保有する土地使用権を中心に子会社資産の評価を、非常に慎重に行ってまいりましたが、最終的に、子会社の簿価純資産額を期末日の為替レートで換算した38,441千円へ減損処理することが、適正であると判断いたしました。

(3) 今後の見通し

上記の決定により、単独決算において「関係会社出資金評価損」53,804千円を計上することといたしました。  
なお、業績に与える影響は、上記の業績予想の通りでございます。

以 上